総合計画策定に係る第１回柏崎市総合計画審議会　議事概要

１　日　時　　令和６（２０２４）年１０月２４日（木）　午後３時００分から午後４時３０分まで

２　場　所　　柏崎市役所４階　４－３、４－４会議室

３　出席者

⑴　委　員　樋口秀委員、柿崎啓子委員、飯田博委員、岡田和久委員、片岡哲雄委員、権田恭子委員、嶋岡和美委員、霜田直也委員、田邉幸子委員、遠山みちる委員、長谷川弘美委員

⑵　庁　内　市長、副市長(危機管理監)、総合企画部長、財務部長、市民生活部長、福祉保健部長、子ども未来部長、都市整備部長、上下水道局長、消防長、教育部長、議会事務局長

⑶　事務局　企画政策課長、同課長代理、同企画係員

４　会議資料

【事前配布】

・次第
・資料1 第六次総合計画の策定について
・資料2 審議会・分科会日程案
・資料3-1 市民アンケート調査の中間報告
・資料3-2 市民ワークショップの報告

【当日配布】

事前配布資料のほか、

・席次表
・諮問書（写し）（委員のみ）
・柏崎市第五次総合計画後期基本計画概要版

５　会議概要

⑴ 開会

⑵ 市長挨拶

市勢要覧の冒頭のあいさつに、『「保守、そして進取」　伝統・歴史を大切なものとし、新たな可能性を開拓する。先んずる精神。柏崎は前に進みます。』と書かせていただいた。

第五次総合計画は、来年度で計画期間を終了し、第六次総合計画をご審議いただくところであるが、非常に速く、激しい世の中の動きに柔軟に対応していくため、前期基本計画4年、後期基本計画4年とし、基本構想の期間を8年間とした。

柏崎市が前に進んでいくため、委員の皆様の幅広い知見を生かし、市の最上位計画である総合計画の策定にお力添えをいただきたい。

⑶ 諮問

第六次総合計画の策定について、市長から樋口会長へ諮問した。

⑷ 会長挨拶

今ほど、市長から柏崎市第六次総合計画の策定について諮問を受けた。今後、団塊の世代が後期高齢者になることも見据え、柏崎の未来のため魅力的な計画となるよう、委員の皆様、そして事務局とともに策定を進めていきたい。

⑸ 議事

委員の発言は次のとおり

発　言　者	発　言　概　要
【柏崎市第六次総合計画の策定について　　資料１ 】	
	（資料１に沿って、事務局が説明）
委　員　：	「魅力・文化」分野が、主に第４章に入るのは効果的で良いと思う。組み直した経緯をもう少し詳しく説明いただきたい。
事務局　：	「魅力」というワードが、分野を示すものではなく、どちらかと言えば横串を刺すイメージであり、産業やそれ以外の分野にも、柏崎市の魅力は当然あるものと認識している。そのため、第六次総合計画策定に当たっては、これまでの章立てを分解し、組み替えたところである。また、大学については、現段階では、第５章の住民自治・行財政の分野で考えている。分科会については、この5分野で審議を進めていくが、章の内容については、審議の中で変更もあり得ると思っている。
会　長　：	第五次総合計画では、例えば、第2章第2節で「商業の魅力を高める」といった項目になっていたが、第六次総合計画では中に溶け込んでいる。魅力は強みであるため、表に出ると良い。
事務局　：	枠組案は、右側が現計画、左側が第六次総合計画を表しているが、あくまでも記載すべき内容を示している単語であり、計画上の表現については今後検討していく。
委　員　：	8ページの、基本構想の説明で、第五次総合計画と第六次総合計画の変更点を示しているが、「はじめに」と「人口ビジョン」を切り離して、第六次総合計画の基本構想だけ議論するということか。
事務局　：	「はじめに」と「人口ビジョン」については、この総合計画の冊子の中には入れ込む予定である。「はじめに」というプロローグ的な部分と「人口ビジョン」という非常に大事な部分については、個別にし、より分かりやすくしたいと考えている。
委　員　：	基本構想を考えるに当たり、やはり人口減少が全ての切り口のキーワードになってくると認識しているがいかがか。
事務局　：	人口展望が、基本方針を考えていく中で、非常に重要なファクターだと考えている。
委　員　：	少子高齢化や人口減少の問題を、あえて基本構想から取り出すことは、後に続く基本構想や基本計画で人口問題に真正面から取り組んでいくという行政側の想いや決意を示したという見方でよいか。 その場合に、少子高齢化や人口減少をネガティブに捉えて危機意識を煽るのか、人口減少を肯定的に捉えるかで、総合計画のトーンは異なると思うが、どのようにお考えか。
事務局　：	人口減少は継続しており、今後も恐らく続いていくものと認識している。また、人口推計よりもさらに早いスピードで人口減少が進んでいるのが実態である。本日欠席の委員からも事前に、人口展望についてはシビアに見て欲しいというようなご意見もメールでいただいた。 一方で、ネガティブすぎる捉え方も注意しなければならないと考えている。人

口減少下でも希望を見いだし、前向きになれるような計画も非常に重要な視点だと思う。これからの審議会の中で、様々なご意見をいただきながら、計画の策定を進めたい。

委　員　：　3ページで、総合計画とは、「市政のあらゆる分野を対象とした総合的かつ計画的なまちづくりの指針」であると定義されており、これが基本構想の「分野別施策の基本方針」につながっていくと理解しているが、第六次総合計画では、分野別施策という言葉が削られ、「基本方針」になっている。

分科会で、あらゆる分野の施策を「分野別」に検討していくとなると、縦割りの壁を排した分野横断型の施策や相乗効果を狙った様々な分野が絡む重点戦略等の検討を進めることは難しいのではないかと感じる。

連携を強化して取り組むことが必要な施策やその事業のアイデアは、恐らく分科会の議論でも出てくると思うが、それらを取りまとめ、実施可能な施策や重点戦略にまとめ上げていく作業が必要になってくる。それが、どういう段階で、誰によって行われるのか、この後のスケジュールの説明で伺いたい。

【策定スケジュールについて　資料２　】

（資料２に沿って、事務局が説明）

委　員　：　土地利用構想は、将来都市像とともに基本構想の重要な部分であり、特に、地区別の土地利用方針は、市民にとって最も身近な空間についての記載であるため、関心があると思う。

市民の理解や関心を促進するためにも、8つの地区の土地利用構想の検討は重視した方が良いと考える。市民アンケートや市民ワークショップの結果を精査するとともに、例えば、各地区内のコミセンの関係者や利用者団体を対象に、昼間のワークショップを開催し、課題や問題解決のアイデアを出してもらうことも良いと思う。工夫し、地元住民の視点が取り込まれた土地利用構想になると良い。

会　長　：　都市計画を専門としているが、総合計画の中に図示された土地利用構想がきちんと入っている自治体は少なく、非常に優れている。今ほどのご指摘について、市はどのように考えるか。

事務局　：　土地利用構想は今後検討していくが、会長の専門であるため、どういった方向性が良いのか会長とも相談しながら進めていきたい。

【市民アンケートの結果報告について　資料３－１　】

（資料３－１に沿って、事務局が説明）

委　員　：　アンケートの対象者を、市民3,000人の無作為抽出としているが、どの年代に何通送ったかなど、数字を押さえているか。

事務局　：　年代は5歳刻みとしており、15-19歳が159人、一番多い年代としては70-74歳が327人である。実際の年齢層を人口比率で案分して配布したため、若い人より年配の人に多く配布する結果となった。

委　員　：　17ページの問25で、回答者のお住まいの中学校区を伺っているが、実際の人口比率と同じなのか、まちなかが多い傾向なのか。

また、補足資料の暮らしやすさの設問で、年齢別のデータがあるが、10年前の40歳代と今の50歳代の方の暮らしやすさの比率は、それほど変化していないのか。例えば10年前、40歳代で満足していた世代は、10年経って50歳代になった今、不満足部分が増えてきているのか。今後、そういった視点での資料を補足し

ていただけると傾向が分かりやすい。

事　務　局　：　人口に比例するように配布しているが、回答者ベースとなると詳しく調べて、見る必要がある。

　また、10年前と10年後の年代で比較した場合にどのような傾向があるかということについては、今すぐにお示しすることはできないが、10年前の調査結果はあるので、そうした視点でも調査・分析したい。

委　　員　：　17ページの属性で、男女別では女性が約58%、年齢別では50%以上が60歳代であり、単純に計算すると3割以上が60歳以上の女性ではないかと感じる。このようなアンケートに熱心に答えてくれる人は、コミセンで懇談会をしたら必ず来てくれると思う。

事　務　局　：　今後の検討とさせていただく。

委　　員　：　５～６ページのまちの魅力で、自然環境、イベント、施設、人柄など、様々なジャンルが聞かれているが、花火が一番という回答が目立つ。これらを一緒に比較するのではなく、カテゴライズして聞くと良いのではないかと感じた。

委　　員　：　10歳代、20歳代など年代ごとに区切るとどのようなアンケート結果になるか見てみたい。

事　務　局　：　今回お配りした報告内容は一部で、実際のアンケートの報告書は300ページ以上になる。年代別、地区別など、設問ごとにクロス集計しているところもあり、公表が可能な設問もあるが、小さく区切ることでサンプル数が少なくなるため、ある程度のサンプル数での比較の方が、より全体に近いということはご理解いただきたい。

会　　長　：　ご希望があれば、事務局にお伝えいただきたい。3ページに、136人が他市町村に移りたいと回答しているが、そういう人が自由記述でどんなことを書かれたのか、また、問1で満足している方がどのように思っているかについて、機会をみて紹介していただきたい。

【市民ワークショップの結果報告　　資料３－２　】

（資料３－２に沿って、事務局が説明）

会　　長　：　ワークショップのメンバーは毎回変えたのか。

事　務　局　：　この機会に、いろんな方々とつながりを持ってもらうという意味でも、毎回メンバーを変えてワークショップを行った。

会　　長　：　せっかくなので、委員の皆様に順番に、意見や感想を一言ずつ伺いたい。

委　　員　：　市民アンケートやワークショップの結果を踏まえて、自分なりに今後の審議会で考えを伝えていきたいと思っているが、市としては、市民アンケートの結果を受けてどのように感じているか。

委　　員　：　ワークショップの報告については、思ってはいたが、あえて活字すると確かにそうだなということが多かった。これらの結果を踏まえて、今後協議をし、計画に盛り込んでいきたいと思っている。

委　　員　：　市民アンケートもワークショップも、このような機会に深く市民の意見を聞いていただいたことに感謝する。10代後半の子どもたちが一時柏崎を離れて、その後また柏崎に戻るかどうかの重要な選択を迫られている中で、数年後にまた戻ってきたいと思えるようなまちづくりには、20代、30代以上の大人たちにかかっている。今回の調査結果を大切にし、自分なりに考えていきたい。

　一方で、せっかくアンケートが届いても大人が受け取ることが多いため、子ど

もの手に渡らないこともある。学校を通じて行うなど、子どもの意見をもっと聞けるよう工夫すると、明るく楽しい柏崎像みたいな意見も出てくるのではないかと思う。

委　員　：　アンケート回収率では、やはり仕事を終えて自宅にいることが多い60歳代以上の方の回収率が良かった。若い人の意見を聞くには、配布場所を勤務先にするなど工夫をすると、忙しい世代の意見も集まりやすいのではないかと感じた。

委　員　：　市民ワークショップは、弱みを弱みのままにしておかず、どのように強みにつなげていくか、将来の姿にどのように掛け合わせていくかというところまで、きちんとワークとしてやっていただいたのが非常に良かったと思う。若者の豊富なアイデアを総合計画に上手に落とし込み、10代、20代の方が柏崎にいて楽しいと思えるようなまちづくりに努めていきたい。

委　員　：　市民アンケートでは、40歳未満の意見と40歳以上の意見で分けて見た時に、どのような結果が出ているか分かると、それぞれの世代の考え方の違いが分かると思う。若い人の意見は、今後のまちづくりに重要であると思うので、総合計画に反映できるように進めていきたい。

委　員　：　ワークショップの報告は、貴重な資料だと思う。第五次総合計画の後期基本計画の策定に携わった際、交通事業者の苦労など聞いた。各分野の個別計画の切れ目が総合計画の終期と連動していないため、難しいこともあるかもしれないが、総合計画が市の最上位計画であれば、本審議会で出た意見を様々な分野に共有し、改善していけると良いと感じた。

委　員　：　今朝の新聞の出生欄とお悔やみ欄の人数が、出生3名、おくやみ20名だった。この10日間の中でも人口の自然減が見られ、これが続いていけば人口が減少し続けることも無理ないと感じた。人手不足で商工会議所も民間企業も、求人を出しても来ないのが現状である。総合計画の中で、産業の活性化やまちのにぎわいなどを記載しても、それを担う人間をどう確保していくのかが非常に重要である。絵に描いた餅で終わらせないために、そういった現状があるということを常に意識しながら考えないと、実現させるのは厳しい。

　個人的には、市民アンケート結果のところで、地元の校区の満足度が非常に低く、ショックだった。

委　員　：　今、大学生のアルバイトの取り合いになっている。少ない人数でシフトを回すなど学生の負担感があり、人手が足りないことを肌で感じている。

　市民ワークショップでは、学生も参加させていただいたが、参加することで意識が高まり、ワークショップ以外の場でつながりができたことに感謝している。

　アンケートは、どうしても回答者が年配者に偏ってしまう。いろんな世代の声を聞くことが目的であれば、回答率が低そうな世代に多く送付したり、柏崎在住か市外在住かは関係なく学校へ調査を依頼するなど、工夫すると良いと感じた。

　総合計画の策定に限ったことではなく、若い人の潜在意識を掘り出していくことを、何らかの形でやれたら面白いと感じた。

委　員　：　若い人の意見を聞き取るのは難しいと思うが、島根県の隠岐島にある高校では、「高校魅力化」に向けたカリキュラムの一環として地域問題に取り組む活動を行い、生徒同士の学び合いや自立学習を支援し、国内外に紹介されるほど成功していると聞いた。柏崎市の学校で地域教育が行われていれば、それにつなげるネットワークが作られると良いと思った。

　市民アンケートの暮らし続けたいかどうかの設問に、自分自身も答えてみた

が、アンケート結果と全く同じであった。愛着があるということは大事だが、「住みやすい」や「これからも住み続けたい」と思ってくれる人が増えることが大切だと思うので、総合計画の指標の一つとしても良いのではないかと感じた。

事　務　局　：　アンケートの結果は、まだ中間の報告であり、詳細な分析はこれからだが、貴重なデータが含まれていると受け止めている。若い人の意見という切り口でアンケート結果を見ることも可能だが、それ以外にも様々な切り口があると思う。こういうデータが見たいというものがあれば、是非、事務局の方に申し付けていただきたい。

今回の総合計画の策定に当たっては、審議会は部長級職員、分科会では課長級職員も関わる。また、全庁的な会議では、計画策定に若手の職員からの意見も重要視するよう伝えており、全庁的に取り組んでいく予定である。

人材不足については、非常に重要な視点だと考えており、これから人口がどのように推移していくか、人口ビジョンで示していく中で、様々な意見をいただきたい。

(6) その他

次回開催予定　第２回柏崎市総合計画審議会　令和7(2025)年1月27日(月)　15:00～17:00
第３回柏崎市総合計画審議会　令和7(2025)年3月24日(月)　15:00～17:00

(7) 副市長挨拶

これからの柏崎、人々が生き生きと暮らし続けられる、豊かで持続可能なまちづくりの指針となるものが、この総合計画であり、本日はそのキックオフの会議であった。

少子高齢化、人口減少のご意見、また、今の子どもたちの将来をつくるのは我々だが、果たしてそれでいいのかというちょっとした疑問など、それらを非常に重く受け止めたところである。

こうした計画は、行政が何か絶対的なものを示し、これに従う形になりがちだが、決してそうではなく、皆様からのご意見をいただきながら、私たち行政も含め、変わっていかなければいけないと思っている。

委員の皆様には難儀をかけるが、引き続きお願いしたい。

(8) 副会長挨拶

本日のキックオフ会議では、アンケートやワークショップの結果について、意見や質問、率直な感想を述べさせていただいた。また、副市長からも今、それをしっかりと受け止めたというご発言をいただいたところである。

丁寧に擦り合わせをし、ベースの作り込みをしていくことが、今後の基本構想・基本計画の策定に生きてくると思う。これから始まる具体的な検討に関して、非常に希望に持てる会議になった。

次回以降、皆様の力を借りながら一丸となって策定を進めていきたい。

(9) 閉会